

大学の世界展開力強化事業（平成 30 年度採択） 中間評価結果

大 学 名	大阪市立大学
整理番号	AA07
事 業 名	日米をつなぐ共創的ソーシャルイノベーター育成プログラム

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

総括評価 A	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
コメント	
<p>本プログラムは、短期研修とCOIL型演習の実施により、共創的ソーシャルイノベーターとして「発見するチカラ」、「創造するチカラ」、「実現するチカラ」を持つ人材育成を目的として実施している。</p> <p>COIL推進部会及びソーシャルイノベーション（SI）コース部会の設置により、SIコースの設計と制度化を行い、中長期ビジョンとの整合性と実施体制の整備を進めており、特に、学士教育及び大学院教育における日米間の連携強化を目指して、国内研修とCOIL型演習の授業の成果を基にしたソーシャルイノベーター育成を目的としたSIコースの開設や、短期研修で交流した日米の学生がSNSを通じて同窓会組織に参加し続けることができる学生間交流の継続と拡大に努めている点は評価できる。海外相手大学のイリノイ大学アーバナ・シャンペーン校とは学術交流協定を締結し、アンドリュース大学とデラサール大学とは包括的大学間交流を締結して共通シラバスの作成やルーブリックを用いた学びの質保証など、大学間交流が進められているほか、教員同士の交流に留まらず大学間でプログラムを推進する連携環境を整えており、ソーシャルイノベーション交流プラットフォームについては、今後の拡大が期待される。</p> <p>一方で、学生交流については事業計画に沿って実施しているが、受入数拡充に向けた取組を継続し、COIL型教育の活用も含めて海外相手大学からプログラムへの参加学生を増やし、プログラムの活性化が望まれる。また、プログラムの具体的な成果・効果が学生の能力向上にどのように反映されるか、各実施項目についてその効果を明瞭化する工夫が望まれる。このほか、今後の学生交流に関連して、COIL型教育をどのように活用していくのか明確な方針設定を行い、本プログラムの成果を、大学全体の国際化にさらにつなげるような取組の強化が求められる。</p> <p>最後に、今後も本プログラム終了後の継続的な実施を見据えた事業計画の策定と安定的な財源確保に努め、学内及び関係機関との質保証を伴う国際教育連携の推進と、将来の我が国の更なる発展に向け積極的なプログラム展開に取り組まれることを期待する。</p>	